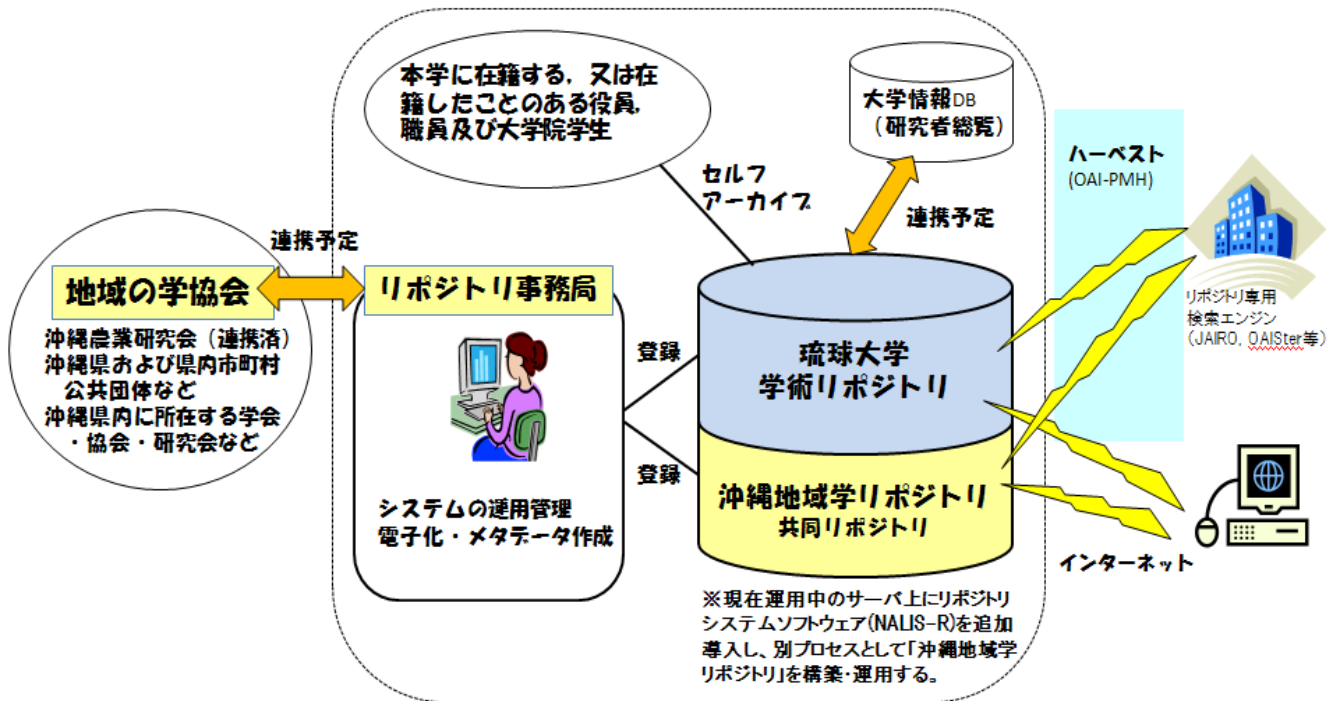


「沖縄地域学リポジトリ」について

1. 概要

琉球大学では、学内の教育研究活動を「琉球大学学術リポジトリ」に保存・蓄積して、世界に無料で発信しています。「沖縄地域学リポジトリ」は、大学の枠を超えて、沖縄県および沖縄県内市町村、学協会等が発行する紀要類のデジタル化を推進することによって、地域の学術研究の振興支援を目指します。平成 21 (2009) 年 2 月 6 日、沖縄農業研究会との連携協力のもと、登録件数 660 件 (沖縄農業研究会の会誌『沖縄農業』創刊号 (1962) ~ 第 41 巻第 1 号 (通巻 54 号, 2007 年)) で試験公開を開始し、平成 22 (2010) 年 3 月 29 日に正式公開しました。

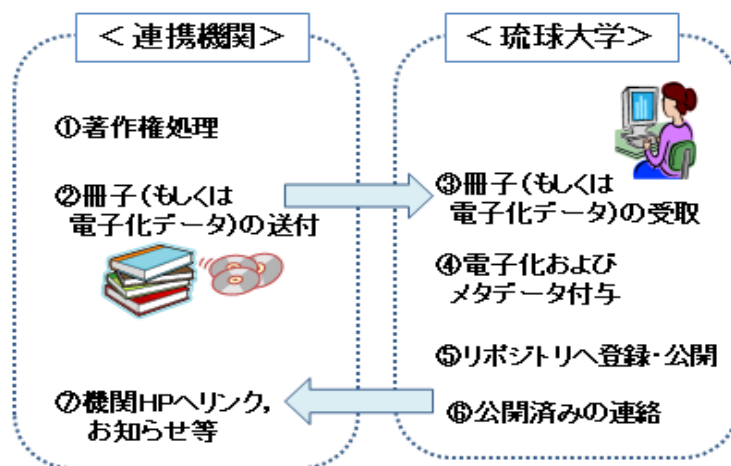
URL = <http://okinawa-repo.lib.u-ryukyu.ac.jp>



2. 収録対象コンテンツ

研究紀要 / 報告書 / 講演会等資料 / 統計データ / その他

3. 公開までのおおまかな流れ



#### 4. リポジトリの機能

##### (1) セルフアーカイブ機能 (※当面は琉球大学附属図書館が代行します)

リポジトリへ各機関担当者ご自身で研究成果を投稿することができます。

→メタデータおよび本文ファイルを Web 画面からアップロードできます。

仮登録されたデータは、琉球大学附属図書館のチェック後に公開されます。

**1. タイトルと著者名を入力してください。(タイトルと著者名は必須項目)**

**タイトル**

**タイトルよみ**

**別言語のタイトル**

**著者名**

例:「山田, 太郎 / 山田, 花子」(姓と名をカンマとスペースで区切り、著者名と著者名の間をスペーススラッシュスペースで区切って繰り返してください)

---

**11. 登録する本文データを選択してください。**

ドキュメントファイル:

ファイル記述:

---

##### (2) アクセス統計の提供 (※当面は琉球大学附属図書館が代行します)

自機関が投稿した論文ごとにアクセス数・ダウンロード数を確認することができます。

アクセス統計を毎月メールで受け取る設定も可能です。

#### アクセス統計情報(月別)

期間-[ 2008年 1月 1日 ~ 2008年 7月 15日 ]

タブ区切りデータダウンロード

1 著者 / タイトル	[不明] / [不明] -- [不明] 旬報社, 2007-3, [不明] Vol. [不明] p. [不明] 一般雑誌記事												
2008年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
アクセス数	10	1	5	5	0	3	1	0	0	0	0	0	25
ダウンロード数	3	1	3	1	0	2	1	0	0	0	0	0	11
2 著者 / タイトル	[不明] / [不明] -- [不明] 2006-2-26, 単行書												
2008年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
アクセス数	40	18	17	14	14	9	7	0	0	0	0	0	119
ダウンロード数	94	48	43	67	49	49	18	0	0	0	0	0	368
3 著者 / タイトル	[不明] / [不明] -- [不明] 琉球大学法文学部, 2006-9, [不明] p. [不明] 紀要論文												
2008年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
アクセス数	63	57	22	26	31	30	36	0	0	0	0	0	265
ダウンロード数	37	28	10	22	33	19	20	0	0	0	0	0	169
4 著者 / タイトル	[不明] / [不明] -- [不明] 琉球大学法文学部, 2002-9, [不明] p. [不明] 紀要論文												
2008年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
アクセス数	13	13	5	5	9	6	18	0	0	0	0	0	69
ダウンロード数	15	6	2	10	5	15	6	0	0	0	0	0	59

タブ区切りデータダウンロード

##### (3) Import および Export 機能

ご要望に応じて、データ (メタデータおよび本文ファイル) を一括して登録 (Import) や抽出 (Export) することが可能です。

#### 5. 「沖縄地域学リポジトリ」で公開するメリット

- ① 機関の研究活動成果物を電子的に保存することができます。
- ② より検索されやすく公開することができます。
- ③ セルフアーカイブ機能を活用すると、より早く公開することができます。
- ④ 論文毎にアクセス統計を確認することができます。
- ⑤ 電子化作業、メタデータ作成、リポジトリ登録等の経費負担は (当面のところ) 発生しません。